

## 2. 景観に関する市民意識

### (1) 調査の概要

市民の景観に対する意見・要望や現状・課題などを把握し、景観施策の方向性の検討を行うための資料とすることを目的として、平成23年度にアンケート調査を実施しました。

#### 調査概要

調査対象	18歳以上の市民から2,000人をコミュニティ・性別・年齢層のバランスを考慮し、無作為に抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成23年6月3日～6月17日にかけて実施
回答数	783人
回収率	39.2%

### (2) 主な調査結果

アンケート調査では、景観に対する市民ニーズとして主に以下のことが明らかになりました。

#### 【本市の景観評価】

市民の景観に対する満足度は高い

特に歴史・文化的景観、自然景観の満足度が高い

#### 【本市の景観まちづくりのテーマ】

歴史・文化的景観を大切に感じている市民が多く、歴史・文化を活かした景観まちづくりが望まれている

#### 【本市の景観まちづくりの手法】

自宅周辺の清掃、緑化など個人単位での景観づくりは盛ん

地域の緑の手入れや清掃、地域の景観づくりに関する話し合いへの参加意向が高い

(地域単位で景観づくりへの展開の可能性)

景観に関する情報提供を行政に望む声が多い

(景観について知りたいという市民ニーズ)

景観づくりのルールや規制については、受け入れる姿勢を示している人が多い

特に「建物の高さに関するルール」に寛容な人が多い

## 本市の景観評価

本市の景観全般について満足度が高く、全体の約7割の人が満足しています。

景観の要素別に見ると、神社、寺院など歴史・文化的景観の満足度が最も高く、次いで、海、山、田園、夕日・夜空といった自然景観の満足度が高い状況が見られます。

商業地の景観に関しては、他の景観要素より満足度が低く中間評価ですが、全ての景観要素において不満を感じている人は少ないと言えます。

### 加重平均値とは

満足：2点  
まあ満足：1点  
どちらともいえない：0点  
やや不満：-1点  
不満：-2点

左記の点数に各選択肢の回答数を掛け、それらを合計し、全体の回答数で割り戻して「加重平均値」を算出

## 景観の満足度（加重平均値）

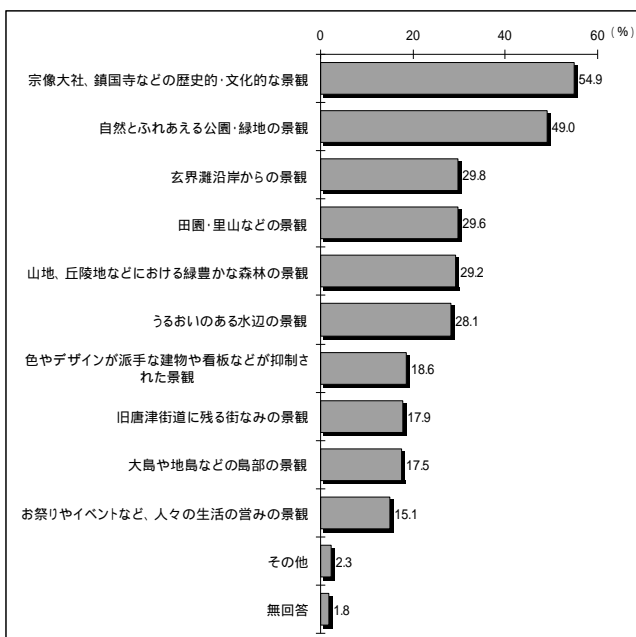


## 本市の景観まちづくりのテーマ

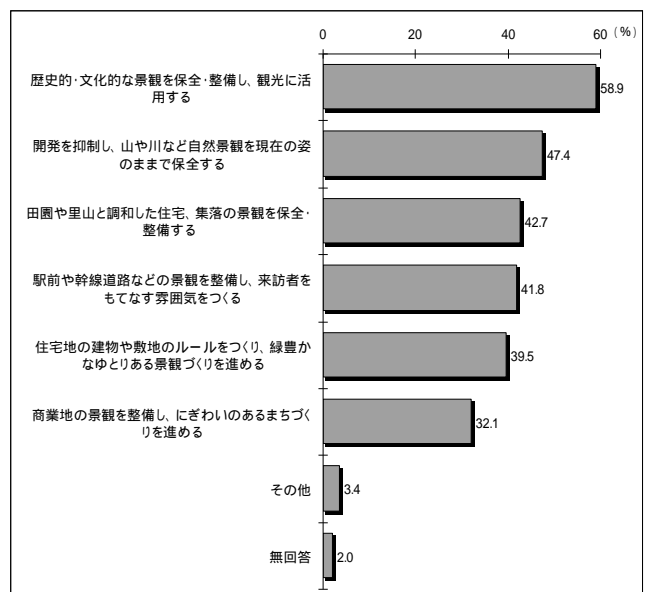
大切にしたい景観としては、「宗像大社や、鎮国寺などの歴史的・文化的な景観」を挙げる人が多く、宗像市らしい景観づくりに向けて大切なこととしては、「歴史的・文化的な景観を保全・整備し、観光に活用する」ことを挙げる人が多く見られます。

市民にとっては、歴史・文化の景観要素としての重要性が高いと言え、今後の景観まちづくりにおいてもそれを活用した取組みを進めていくことが望まれています。

### 大切にしたい景観



### 宗像市らしい景観づくりに向けて大切なこと



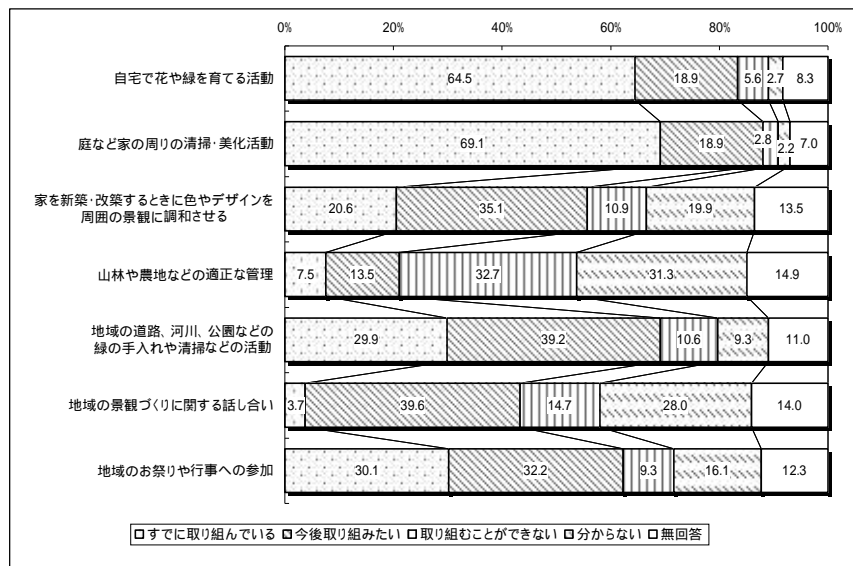
## 本市の景観まちづくりの手法

「庭など家の周りの清掃・美化活動」や「自宅で花や緑を育てる活動」に関しては、既に取り組んでいる人が多く、個人単位での景観づくりは盛んです。今後取り組みたいこととしては、地域の緑の手入れや清掃、地域の景観づくりに関する話し合いに参加意向を示している人が多く見られ、地域単位で景観づくりへの展開の可能性があると言えます。

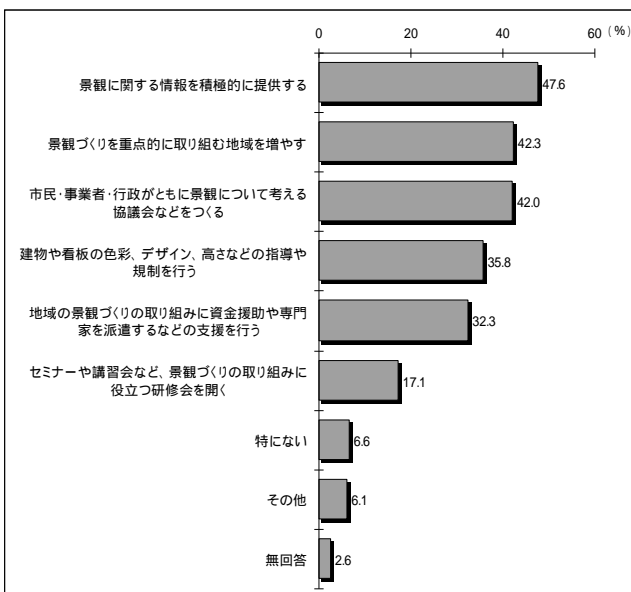
本市の景観づくりのために、行政が取り組むべきこととしては、景観に関する情報を積極的に提供することを望む声が多く、景観について知りたいという市民ニーズが高いと言えます。

自分が住んでいる地域の景観づくりを進めるために許容できるルールや規制に関しては、「ルールを設けるべきではない」と考えている人は約2割にとどまり、多くの人は景観づくりのために何らかのルールや規制を受け入れる姿勢を示しています。ルールや規制の中でも「建物の高さに関するルール」に寛容な人が多く見られます。

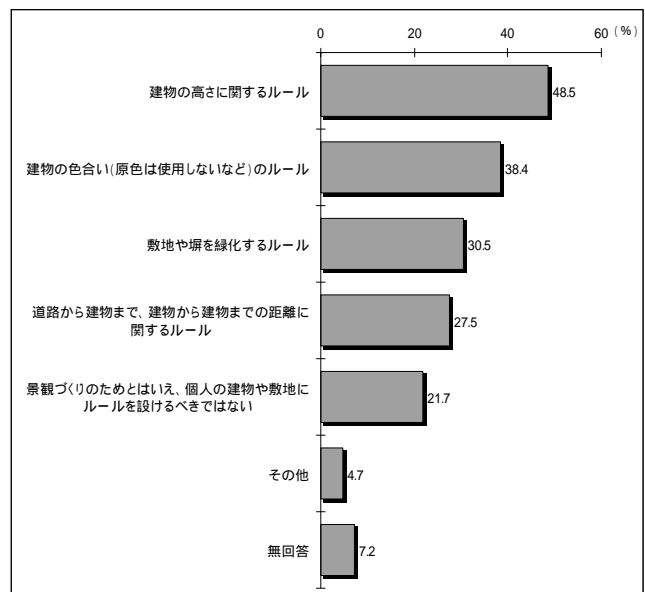
### より良い景観づくりへの参加・協力意向



### 景観づくりのために行政が取り組むべきこと



### 景観づくりのために許容できるルールや規制



### 3. 本市の景観課題

本市の景観特性を踏まえ、景観課題を以下の通り示します。

#### 課題 地域特性を活かした景観の創出が必要

##### 地域特性に基づく景観まちづくりの方向性の明確化と共有が必要

本市は、北側の海岸部とそれを囲む山々の 2 つの要素を背景に豊富な景観資源を有し、市民の景観の満足度からみても、比較的良好な景観が保たれていると言えます。一部の地域では地区計画や建築協定が結ばれ、市民が主体的に独自のまちづくりのルールを定め、景観を保全している事例も見られます。

しかし、その一方で、市域内に様々な景観要素が存在しているため、各地域が抱える景観における課題やその解決策が異なり、全地域、同じ方策で景観まちづくりを進めれば良いと一概に言えない状況です。

そのため、各地域の景観特性を見出し、景観まちづくりの方向性を定め、それぞれの地域に合った方策で景観を守り育てていくとともに、それを市全体で共有することが必要です。

##### 特に歴史・文化的景観を活かした景観まちづくりの検討が必要

本市は、古くからの信仰の歴史があり、宗像大社をはじめとした神社仏閣や、大島、沖ノ島を經由して朝鮮半島に至る「海北道中」などを中心に、歴史・文化的景観が形成されてきました。市民アンケート調査においても、満足度が高く、大切にしたい景観としてあげられているのが歴史・文化的景観です。

しかし、市全体を見ると、歴史的な建造物や地域に伝わる伝統芸能等の維持が難しくなり、これまでの歴史の中で失われてしまったものも見られます。

景観まちづくりの展開としても歴史・文化を活用するとともに、各地域の歴史・文化を掘り下げて学ぶ取組みの中で、本市のまちの成り立ちに目を向けることが必要です。

#### 課題 地域間、要素間の景観のつながりが必要

市全域の景観まちづくりを検討する上で、各地域の個別の景観資源・要素を保全するだけでなく、景観資源・要素をつないで連続性や一体感を生み出すことが不可欠です。しかし、本市では景観資源が多岐に渡ることもあり、景観につながりを生み出す歴史的な背景や自然条件はあるものの、それを十分に活かし切れていない状況が見られます。

本市において、景観資源・要素が連続した景観を生み出すためには、釣川水系を中心とした海・山・川のネットワークや、歴史・文化のストーリーと組み合わせることで景観まちづくりを展開するなど、景観上のつながりを浮かび上がらせていくことが必要です。

また、宗像大社と鎮国寺、唐津街道原町と唐津街道赤間宿のように、歴史的背景としてのつながりを有する資源に関しては、ハード面だけでなく、ソフト面の取組みも必要です。

#### 景観に関する市民活動の支援が必要

本市は、原町の街なみ修景や一部の住宅地・市街地での地区計画の策定など、これまでに市民による様々な景観まちづくりの取組みが積み上げられ、現在に至っています。市民アンケート調査結果によると、地域全体で景観を守り育てる取組みや、地域の景観を知る、考えることへの市民ニーズも高く、今後の景観まちづくりの展開が期待されます。

しかし、現在の景観まちづくりの取組みは、身の回りの住環境や特定の地域に限られているものもあり、人や地域によって取組みの形は様々です。

市全体で良好な景観を守っていくためには、市民（コミュニティ、市民活動団体）・事業者・行政等の多様な主体が担い手として協働で景観まちづくりを行うことが大切です。

また、市全体の景観を考え、個別の景観資源・要素の連続性を生み出すためには、景観を守り育てる市民や事業者、地域間の連携が重要であり、連携について話し合う場づくりや、各活動を支えるための行政支援も必要です。

#### 市民が景観に目を向ける仕掛けが必要

景観まちづくりを進めるためには、市民一人ひとりが景観資源の価値や、その場所にその景観が存在していることの意味や重要性を理解し、それを市民全体で共有することが大切です。市民アンケート結果でも、景観に関する情報を知りたいという市民ニーズが明らかになっており、情報提供により市民の景観への関心が高まる可能性があります。

本市では、平成 21 年度から実施している景観に関する啓発事業をはじめ、市民が景観に目を向ける取組みを行ってきています。それを一過性のものに留めるのではなく、継続して実施し、景観まちづくりの裾野を広げていくことが大切です。

また、市民が主体的に景観まちづくりに参画できるような環境をつくり、誰もが良好な景観を守る一員としてあらゆる形で関わるることができる仕掛けづくりも必要です。